

研究委託校・実践校の紹介

公開研究会
11/28
(火)

洞爺湖町立洞爺中学校

主体的に学習に取り組み、
確かな学力を身につけた生徒の育成
～ICTの有効活用による授業改善を通して～1年 数学科
「正負の数」
タブレットを使って仮平均を説明しているところ3年 総合的な学習の時間
「修学旅行のまとめ」
タブレットを使って自主研修のまとめをしているところ

「ICTを使い始めるのは大変!」という思いをもちながらスタートした本校の校内研修。「GIGA洞中」を合言葉に“授業”“家庭学習”“長期休業中の課題”で、ICTの活用の仕方を悪戦苦闘しながらも模索しています。

各教科の先生にICTを活用した授業や家庭学習の取組を紹介してもらったり、そのメリット・デメリットを交流したりすることで、当初の思いが、「使ってみると良いことあるな!」に変化しつつあります。

今年度の
公開研究会は
ありません

壮瞥町立壮瞥小学校

教育の連続性と豊かななかかわりの中で主体的に学びを高め、
未来のふるさつをつくる子の育成
～児童一人一人に、確かな学力を身に付けさせるための授業改善をとおして～3年 算数科
「あまりのあるわり算」
自由進度学習で、答えに至るまでの考え方を説明し合っているところ4年 国語科
「ランドセルは海をこえて」
タブレットを使ったポップ作りをしているところ

本校では、日々の困り感や課題を解決するための様々な実践を行い、職員間で共有していく「課題解決型校内研究」を進めているところです。

児童の実態を出発点に、改善・解決したいことを定め、少人数のチームごとに実践を深めることで、より具体的なテーマに焦点を合わせ、児童一人一人に確実に学力を身に付けるために授業改善を行うことを目指しています。また、実践事例や幅広いアイデア、取り組みの効果は、「見える化」し、全体で発信・共有することで今後の方向性を検討していきます。

今年度の
公開研究会は
ありません

厚真町立厚真中学校

自ら学び、他者と高め合う生徒の育成

本校では、単元全体が、「課題の設定」、「見通し」、「自力解決・学び合い」、「まとめ」、「振り返り」の構成になるように意識して実践を積み重ね、主体的・対話的で深い学びの実現を目指しています。全教員が授業公開を1回以上行い、参観者は学び合いや振り返りの場面で子どもたちの様子に注目します。

事後協議では、学び合いの場面を中心に生徒の情報を交流し、各々が授業改善に活かすように努めています。事後協議は教員一人一人が発言しやすい柔らかい雰囲気で行われています。



2年 総合的な学習の時間
「未来を描こう～宿泊研修・職場体験学習」
係会議をしているところ



3年 理科
「水溶液とイオン」
電流が流れる水溶液が何かを調べる実験をしているところ

今年度の
公開研究会は
ありません

むかわ町立穂別小学校

自ら考える力を身に付けた児童の育成
～「既習事項を活用する力の育成」と
「学び合い」を通じて～

思考力に課題が見られる本校の実態を踏まえ、今年度からは「既習事項を活用する力の育成」と「学び合い」を視点とした授業改善を中心に研究を行っています。それにより、既習の知識や体験を最大限活用して問題を解決していこうとする「自ら考える力を身に付けた児童」が育つと考えました。

次年度の公開研究会に向けて、授業における学習過程の明確化や、研究授業及び各学級の授業公開を行い、実践を積み重ねているところです。



1年 国語科
「ともだちのこと、しらせよう」
録画したインタビューの様子を見て話し合っているところ



4年 社会科
「ごみはどこへ」
考えた内容を話し合っているところ

今年度の
公開研究会は
ありません

白老町立竹浦小学校

自分の考えを広げ、深める子の育成

～分かった!できた!楽しい!を生む
探究型授業を通して～

本校は、全学級で複式授業が展開されており、子どもたちは学習リーダーを中心に、協働的に学習を進めています。

今年度は、学び合う活動を通して考えを広げたり深めたり、どの子も自分の力に合わせて学力を伸ばしたりするための、学習形態や学習方法の工夫について研修を深めています。学び合う活動の充実という点で、目的をはっきりさせた交流場面の設定や、ICTを用いた近隣校との遠隔合同授業の充実に重点的に行っています。



3年 国語科

「ちいちゃんのかげおくり」

近隣校の児童と、2つの場面を比べてちがいを考えているところ



3年 算数科

「たし算とひき算」

十の位が0のひき算の計算の仕方について学び合っているところ

今年度の
公開研究会は
ありません

豊浦町立大岸小学校

主体的・協働的に学び合う子どもの育成

～算数科の学習を通して～

本校の研修は、研究主題を『主体的・協働的に学び合う子どもの育成』とし、算数科の実践を通して校内研修を進めています。

研究仮説は、(1)基礎基本の確実な習得、およびそれを進んで活用するための工夫、(2)成果を記録し、それをもとに深める・振り返る、の2点を設定しています。それに伴った研究内容は、①既習事項の振り返りの方策 ②既習事項を生かした思考・表現活動の実践 ③ノートや板書で、思考の成果を記録する ④言葉で学習の振り返りをする といった内容を基に日々の授業改善に取り組んでいるところです。



3年 算数科

「わり算」

半具体物を使って分けているところ



3年 算数科

「長さ」

巻き尺で木の幹の周りの長さを測っているところ

今年度の研究について

今年度の「調査課題研究」の内容について紹介します。

「個別最適な学びと協働的な学びを推進するための ICTの活用について」

6月に苫小牧市、室蘭市を除く胆振管内で授業を担当されている先生方にアンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。現在、実施したアンケートの集計作業と分析・考察を進めています。



<調査課題研究の内容>

1 ICTの活用状況について

- ① 日常的なICTの活用について
- ② 標準アプリ（Google Classroom/Microsoft Teamsなど）の使用頻度について
- ③ 外部アプリ・サービス（Kahoot!/Padletなど）の使用について
- ④ デジタルドリルの活用について

2 個別最適な学び・協働的な学びの実現に向けたICTの活用状況

3 個別最適な学び・協働的な学びの実現に向けたICTの活用例

2月末に調査課題研究紀要を発行する予定です。ご期待ください。

冬季研修講座のご案内

講座のテーマ……基礎から学ぶLGBTQとSOGI 子どもたちからのメッセージ

日 時：令和6年1月9日(火) 10:00~12:00

形 式：会場とZOOMのハイブリッド方式

対 象：小・中学校の教員

講 師：高橋 愛紀 氏 (SOGI-Mamii's)

会 場：登別市民会館

※詳細につきましては、後日送付する要項をご覧ください。

【研修講座 問い合わせ先】

胆振教育研究所 所員（登別市立登別小学校 教諭 中村 章人） TEL0143-83-1014

